

第1回 橋本市公共下水道事業審議会特別専門小委員会 会議録

日時：平成24年10月4日（木）午後1時30分～午後4時

場所：橋本市役所 3階 議会委員会室

【小委員会出席委員】

濱田學昭委員、上久保修委員、笹嶋邦彦委員、贅川一郎委員、加藤昌男委員

【小委員会欠席委員】

欠席者なし

【小委員会内容】

1. 開会

- ・会議の公開について

傍聴人：なし

2. 委員長の選出

(1) 委員長に 濱田 學昭 委員を選出

(2) 副委員長に 上久保 修 委員を選出

3. 委員長あいさつ

4. 議事

(1) 付帯意見検討の今後の進め方について

事務局より資料に基づき説明

《質疑応答》

【委員長】

2に関して、来年度から下水道料金を改定するにあたり、その時期に合わせて新しい助成制度を創設していきたいということが急遽方向が定まり、検討するために小委員会の日程を組ませてもらった。当面はこの2の有収水量の向上のための助成制度について検討していきたい。

【事務局】

助成金の限度額について、130円から150円に改定することにより、年間6000万円増加する。その範囲内でいくと仮定すると、未接続の約7割の2400件を接続し、15万円助成すると、3億6000万円になる。年間6000万円の増収を6年間かけて3億6000万にするというイメージになる。6年かけてやるか短期間でやるかはこの場での議論になる。

【事務局】

資料で未接続は3760件となっている。接続率を何%にすることを目標にするかで接続する件数が変わってくる。全体として70%までするのか、80%までするのか。接続率を70%にすると仮定した場合、3760件のうち約1600件の接続が必要となってくる。80%となれ

ば 2300 件の接続となってくる。財源のいける範囲でどんな形で何年間でやるのかというのを次回検討をいただけたらと考える。第 1 回目については、全国の事例の調査の報告と、次回報告させていただくアンケートについて。

【事務局】

今は極端な話をしたが、増収になった部分を還元するということであったが、実際は、下水道の整備を昭和 53 年からやってきたが、老朽管の改修があり、改修の費用にも充てる必要がある。そうした中で、6000 万円を圧縮して、期間限定ということで実施していく必要がある。財政課の立場からは老朽管の改修にもあてていく必要があると考える。あくまでも上限は 6000 万というイメージでということである。

【委員長】

助成制度の話がでてきたのは、値上げするからにはこういうこともあるということがないければ難しい。その時に助成制度も考えていきますということである。この助成制度の財源を財政局から新たな財源を出してもらうのは難しいことであると思う。今回値上げしてできた 6000 万円の一部を使わせてもらおうということ、その中で新たな助成制度を考えていこうということである。

【事務局】

アンケート調査でどこまでの助成金があれば接続していただけるかという項目があるので、来週にそれらを含めて市としての助成制度を皆さんに諮っていただけるような形で提案させていただきたい。今言っていたように財政的な部分があるし、また、期間的な部分もあるので、できれば次回市からの案として出させてもらうので、議題の中で意見をいただきたい。

【委員】

新しく助成金を出すということをする、市として今までと全く別の予算を用意しないと失敗する恐れがある。料金の値上げ分を使うということだが、そのお金は必要だから値上げしたものであり、助成金の財源は市が別に用意すべきである。そうでなければ値上げは必要なかったということになる。

【事務局】

新制度について、今までに接続してくれていた世帯と新規に接続してくれる世帯間の格差が一番大きな問題になってくる。格差の解消をどのような形でできるのかということも次回に意見をいただきたい。

【委員】

値上げは来年の 4 月からですか。また、新制度も 4 月からですか。そうすると、今まで接続してこなかった人たちはお金がかかるという理由で接続してこなかったということもあるので、値上げする中で接続することを拒む人が多いのではないかと。作戦的にまず新制度を確立し、接続してもらった方がいいのではないかと。また、消費税が上がると工事費も上がるので、それまでにやるのがいいのではないかと。

【事務局】

助成額について、今実施しているアンケートでは何円出してくれたら接続してくれるかということは聞いていない。そうすると掛かる費用全部ということになる。今回は 5 万以上、10 万、15 万、20 万というようにしている。それでも市民の方々にたずねると一番大きな金額となると思われる。

【委員長】

助成制度が必要だとはずっと考えられているが、財源の確保が難しいということで進まなかった。今回の料金改定により、使える可能性がある。

【委員】

値上げするときに、市としてこういうことで困っているから値上げせざるを得ないとい、後 5 年すれば何円になっているのかを提示すべき。具体的な数字を出し、もうちょっとだけ我慢してほしいとお願いすべきである。

【事務局】

国と市では予算の折衝が違う。市の場合、基本計画に基づいて実施計画を毎年立てている。3 年ローリングで検証していて、3 年先までを目途に立てている。ただ、今のような状況になると、新たな助成制度等を確立していくとなると、新規事業として打ち立てていく。これは政策調整会議にも諮っていき、それがどうしても必要であるということで新たに段取りをさせてもらうというのが手法である。こういった形で、新規でも必要でやむを得ないということであれば予算は獲得できる。

【委員長】

新規に接続する方に対する制度というわけであるが、この制度を確立するにあたり、既接続者への対応も問題となってくる。新制度について、12 月議会に提出するために、小委員会での議論を全体の委員会に報告するため、3 回目の小委員会で小委員会での結論を出す必要がある。

(2) 接続促進方策（新助成制度）の検討について

事務局より資料に基づき説明

《質疑応答》

【事務局】

受益者負担というのは、下水道を使えるようになることより生活がよくなるということから工事費の一部を補てんしてもらっている。

【委員長】

今回期間限定で集中的にする。今、アンケートをしているが、アンケートだけでなく、その中で聞いた話から次回具体的な助成制度を検討していきたい。

【委員長】

グループでやっていただくのが一番いい話であるから、隣同士で一緒に入ってもらって動きを作ってもらうのがよい。こういう制度設計はどうであるか。

(3) その他

【委員長】

推進委員会は是非作っていただきたい。

5. その他

6. 閉会 閉会時間 午後 4 時 00 分

議事録署名

委 員 長 _____

会議録署名委員 _____

会議録署名委員 _____